

呉越同舟

① 善く兵を用ゐる者は、譬へば率然のごとし。
上手に 使う 例え ようだ
副詞

② 率然は、常山の蛇なり。
である

③ 其の首を撃たば 則ち尾至り、 其の尾を撃たば 則ち
攻撃し たら 助けに来て

首至り、
が 助けに来て

④ 其の中を撃たば 則ち首尾俱に至る。
ほど 攻撃し たら と ともに 助けに来る

⑤ 敢へて問ふ、「兵は率然のごとくならしむべきか。」と。
敢えて 尋ねます 兵隊 ように せる ことができます

⑥ 曰はく、「可なり。夫れ呉人と越人とは相悪むなり。
言うことには 可能 である そもそも の国の の国の 互いに憎んでいるのだ

⑦ 其の舟を同じくして済るに当たりて、
それら 乗る 川を 渡る あたつ

⑧ 風に遇はば、其の相救ふや、左右の手のごとし。」と。
突 遭つた ならば それらが 互いに 救う こと ようなもので 親身になつて助けるのだ。

(口語訳)
呉越同舟

兵士の使い方が巧みな者は、たとえば率然のようなやり方をする。率然というのは、常山の蛇のことである。その頭をたたくと尾が助けに来、その尾をたたけば頭が助けに来、その中ほどをたたけば頭と尾がともに助けに来る。

あえてお伺いたします、「兵士たちは率然のようにさせることができますのか。」と。答えて言う、「できる。そもそも呉の国の人と越の国人は互いに憎み合っている。同じ舟に乗って川を渡っていて、突風に出くわしたら、お互い助け合うことは、左右の手が互いにかばい合うようなものである。」と。